



No.9

平成20年1月1日号

うえだ市議会だより

～委員会の活動報告～



ここに覚悟あり!!

議長 土屋 陽一

副議長 藤原 信一

市民の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。そして、「今年こそ」の計画を立て、進んでいらつしやることと存じます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、地方自治法施行60周年記念の年でした。この法律により普通地方公共団体、執行機関、財務そして議会などが定義づけられています。改めてこの法律を制定し施行された先人のご努力に感謝したいと思えます。

合併2年目の昨年は、精力的に議会運営の改革を進めてまいりました。例えば、一般質問の形式について執行部に向かって質問する「対面式」を9月議会で取り入れました。概ね良好ですが、これにとどまることがなく工夫をし、より一層市民にわかりやすい質問展開をしていく必要があると思えます。

地方自治体は、首長（市長）と議会議員がともに市民から直接選挙で選ばれる二元代表制をとっています。その意味で相互の抑制と均衡によってある種の緊張関係を保ち、議会が市長と対等の機関として行政運営の方針を議決、その執行を監視し、また積極的な政策提言を通して政策形成の舞台になることが二元代表制の姿と思えます。

今年には議員任期の後半に入ります。これまでの改革などをもとにさらに知恵を出し合い心を合わせて進みます。34人の議員は、おかげさまで元気に活動をさせていただいております。今年も各議員が高き志を熱き胸に持って市民の負託にこたえていく覚悟であります。

皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

新上田市議会が発足して2年が経過しようとしています。

これまでの議会の各委員会の活動概要を次のページから紹介します。

総務文教委員会

- ◎ 安藤 友博
- 久保田由夫
- 小林 隆利
- 井沢 信章
- 三井 和哉
- 清水 俊治
- 下村 栄
- 堀 善三郎
- 丸山 正明

―現場を知る―

新議会常任委員会として合併後の地域振興など、先進地の取り組みから見た新上田市の地域づくりや、教育関係諸団体と数多く懇談をする中で、教育施設の環境整備に視点を置き、委員会として新上田市内すべての小中学校の施設環境を視察する事を決め、実施してまいりました。

その際、旧市町村それぞれの教育施設整備の取り組みの違いを知り、施設環境の格差の状況やそれぞれの改修状況の遅れなどを感じました。

現場を知る事の重要性を改めて認識し、今後も委員会として取り組んでまいります。



産業水道委員会

- ◎ 大井戸 荘平
- 滝沢 清茂
- 西沢 逸郎
- 渡辺 正博
- 下村 聖男
- 児玉 将弘
- 武藤 忠一

―産業振興は市政の柱―

当委員会は、上田市発展の基礎となる商業、工業、観光及び水道と審議内容が幅広く、特に商業においては中心市街地の活性化策やJ-T跡地の開発等市民の注目を集めている問題、リーディング産業と位置づけている観光の振興、通過型から滞在型への方向転換、また、農業については生産物販売額の低価格化、就業者の高齢化による後継者不足、有害鳥獣による被害の拡大問題、さらに、水道については、おいしい水のための優良水源の確保等、多くの課題について調査研究を重ね市の柱である産業振興に取り組んでおります。



厚生委員会

- ◎ 金井 忠一
- 足立 誠
- 竹花 静江
- 小林三喜雄
- 池上喜美子
- 外山 愷
- 南波 清吾
- 成田 守夫
- 藤原 信一

―行政視察行こう―

当委員会では本年度の行政視察を10月17日から19日にかけて行いました。東京都北区では「健康づくり応援団事業」や「子ども家庭在宅サービス事業」について、広島県尾道市では「公立みづき総合病院」について。

同病院は周辺5市1町人口7万人を診療圏域とする中核的综合病院で、ICUや無菌手術室をはじめとする高度医療はもちろんのこと、退院後は在宅医療を積極的にを行い、患者本位の医療を提供しています。

また、昭和53年から黒字経営というすばらしい総合病院でした。



環境建設委員会

- ◎ 尾島 勝
- 土屋 孝雄
- 古市 順子
- 内堀 勝年
- 大井 一郎
- 田中 武文
- 深井 典子
- 南雲 典子

―新たなスタート―

都市建設部及び消防部を所管してまいりました建設消防委員会は昨年4月より市民生活部も加えて所管することとなり、委員会名も新たに環境建設委員会としてスタートいたしました。

道路の新設や拡幅、カーブミラーや街灯の設置、消防設備の充実、不法投棄ごみやごみ集積所を含む環境美化等、市民生活に直結する自治会要望も多いことから、当委員会では昨年、関連団体である建設業協会や消防団、清掃事業連合会との懇談会も開催し、団体の持つ諸課題も同時に把握するよう努め、審議してまいりました。



議会運営委員会

- ◎ 堀 善三郎
- 外山 愷
- 池上喜美子
- 下村 栄
- 南波 清吾
- 成田 守夫
- 足立 正明
- 丸山 弘
- 武藤 忠一
- 金井 忠一

―議会改革への取り組み―

旧市町村間で議会の運営方法が異なっていたことから、全議員から改革事項について要望を取り、「新しい議会運営及び改革事項について」今日まで15回以上の委員会を開催して協議を行い、20数項目にわたる改革を進めてきました。

主な改革点は、①傍聴希望者への配慮として、受付方法を申請書方式から口頭での方法に変更。②本会議初日に議案概要を議場入口に配置。③一般質問を対面式に変更等です。

市民に親しまれ、わかりやすい議会とすべく、議会改革を進めております。皆さまのご意見・ご要望をお聞かせください。



議会広報特別委員会

- ◎ 内堀 勝年
- 三井 和哉
- 井沢 信章
- 古市 順子
- 池上喜美子

―議会と市民の橋渡し―

本年も昨年に引き続き新年号を発行しました。

私たち委員一同は「議会報」の基本精神として議会活動を市民の皆様にお知らせし、声を聞かせていただき、一体感の醸成を築くべく努力してまいりました。

また、紙面の構成でもそれぞれ工夫を凝らし、学校や地域でお知らせしたい文化財を紹介し、より関心を持って読んでいただける「議会だより」の発行に努めてまいりました。

任期は残り数カ月となりましたが、市民の皆様のご協力をいただきながら取り組んでいきます。



地域交通対策特別委員会

- ◎ 渡辺 正博
- 深井 武文
- 小林 隆利
- 土屋 孝雄
- 安藤 友博
- 尾島 勝年
- 下村 栄
- 田中 武
- 堀 善三郎
- 南雲 典子

―交通弱者を守るための路線確保は自治体の役割―

鉄道やバス路線の廃止が、平成12年以降、鉄道で30路線、バスで738系路線に上るといふ事態は交通弱者にとって死活問題です。とりわけ上田市にとっては「上田電鉄別所線」の存続が大きな関心事であり、政治課題でもあります。

当委員会では別所線支援計画について担当部局から説明を受けるとともに、上田電鉄との懇談会を開催し別所線の現状と課題について意見交換を行いました。

今後、市内の交通体系のあり方を示す「公共交通活性化プラン」が策定されます。「市民生活の交通手段の確保」のため、さらなる研究・検討を行ってまいります。



市街地活性化対策特別委員会

- ◎ 武藤 弘
- 田中 武
- 小林三喜雄
- 井沢 信章
- 内堀 勝年
- 渡辺 正博
- 外山 愷
- 成田 守夫
- 久保田由夫
- 南雲 典子

―街なかに活力を―

地方都市は、バブル崩壊による倒産や閉店で全国的に空き店舗が増加し、街なかのにぎわいや活力が失われています。上田市も例にたがわず、街なかに大金を投入しても、郊外の大型商業施設や大資本の力の影響で年々「シャッター通り」化が進み、街なかの衰退が進行しています。

大都市機能の集積、空き店舗対策、駐車場の創出、交通対策の整備と課題が多い中、商業集積のみならず、教育、文化、福祉、居住機能等の集積に対し、市民との協働を基本とした活性化に取り組み研究、検討を行ってまいります。



地域医療対策特別委員会

—安心な地域医療を—

- 子郎 利雄 一郎 文平 吾男 一 一
- 典逸 隆喜 一 武 莊 清 将 陽 信 忠
- 雲 沢 林 三 大 井 戸 波 玉 屋 原 金
- 南 西 小 小 大 深 大 南 児 土 藤 原 金



国の医療制度改革を受け、地域医療格差が叫ばれる中、「市民が地域で安心して医療を受けられるために」何ができるのか？ 国立長野病院や上田市医師会、小県郡医師会、依田窪病院、武石診療所等を視察、意見交換を重ね、医療現場の実態を調査研究してまいりました。

今後、地域医療の充実に向け、公立病院、二次医療圏として市民が安心して医療を受けられるよう、市民の皆さまの理解と公立病院の医師、助産師、看護師等の確保充実のため、3月議会に向けて政策提言してまいります。

行政改革特別委員会

—行政改革は待ったなし—

- 俊 栄 雄 江 哉 文 茂 聖 誠
- 水 村 土 屋 竹 花 三 井 深 井 滝 沢 下 村 足 立 久 保 田 由 夫



当特別委員会は、新市の重要検討機関として位置づけをされ、10名の委員をもって組織されました。

委員会において重点事項8項目を選定し、調査研究を行いました。大事なことは重要度や緊急性、効果度、市民サービスの向上の面から総合評価をした上で、①歳入の確保（収納対策）、②公共用地の利活用（売却含む）についての調査結果を6月、9月の議会にそれぞれ報告しました。次のテーマとして「公共施設に係るコスト管理」について関係者から資料の提供を求めながら研究、検討に入りたいと思います。

分権型地方自治研究委員会

—地域内分権の推進について—

- 将 順 和 友 博 治 武 文 茂 清 平 誠
- 児 古 市 三 井 安 藤 清 水 田 中 深 井 滝 沢 大 井 戸 庄 平 誠



分権型新設対等合併として発足した新生上田市。地方分権がどう構築されていくのが調査研究することを趣旨とする当委員会であるが、地域自治センターについての地域展望、住民要求に対応できる「地域予算」をどう進めようとしているのか。各地域と住民自治を充実させるための施策はどうか。自治センター長の権限の確立はどうか。地域振興事業基金の運用や使途について自治センターや地域協議会がどうかかわっていくのか。等々調査研究し、刷新的な分権型自治の構築を目指して提言してまいります。

議員の寄付や年賀状は禁止されています。

議員は、お祭りの寄付、スポーツ大会の差し入れ、近所のお祝いなどや年賀状等（答礼のための自筆によるものを除く）を出すことが公職選挙法で禁止されています。

また、議員に対する寄付の勧誘や要求も禁止されています。

編集後記

子どもたちが健やかに育つことはみんなの願いだ。しかし、この国は今、子育てに関する大きな課題を抱えている。それは発達障害と言われる子どもたちのことだ。文科省の調べによると小学生の6%にその症状が見られると言われている。それは上田市の子どもたちも同様だ。国は法改正をして「特別支援教育」と位置づけ、普通教室の中で育てることを決めた。上田市もこれにならい、各学校に1名の特別支援要員を配置する。発達障害にかかわる取り組みはようやくスタート台に立った。

発達障害についての上田市における取り組みは、昨年の6月議会から何人かの議員が問題提起してきた。社会が抱えるさまざまな課題に議会は機敏に対応しているか。私たち議員に課せられた責任は常に重い。

（井沢 信章）

平成20年1月1日発行
 発行：上田市議会
 〒386-8601 上田市大手一丁目11番16号
 TEL.0268(22)0452 FAX.0268(23)5136
 E-mail: gikai@city.ueda.nagano.jp
 URL: www.city.ueda.nagano.jp
 編集：議会広報特別委員会
 委員長：内堀 勝年
 副委員長：三井 信章
 委員：井沢 市子
 古池 上喜美子
 印刷：田口印刷株式会社